

JFSAとAKBG(アル・カイル事業グループ)がおこなう連帯事業

JFSAとAKBGは、古着を活用した事業を協力して行ない、スラムの子どもたちの学びを支える「アル・カイルアカデミー」の運営を支援しています。

JFSAは年間約110トンの古着や毛布を回収し、約90トンをパキスタンに輸出しAKBGが卸販売します。利益は、スラム地域で暮らす子どもたちが、無料で通える学校「アル・カイルアカデミー」の運営資金になります。約20トンはJFSAが国内で販売し、利益がJFSAの活動を支援しています。

▶皆さんの古着が、スラムの学校の運営を支えるまで・・・



国内販売(フリーマーケットにて)



圧縮した古着のコンテナ積み込み

アル・カイルアカデミーとは

パキスタン最大の都市、カラチ市のスラムにある無料の学校で、本校と6つの分校、専門学校が1校、山岳部に分校が1校あり、全体で4500人以上の子どもが通っています。校長のムザヒル氏は、1987年に10人の子どもといっしょに学校を始めました。

子どもたちは、家計を支えるため働きながら学んでいます。

働きながらも学べるよう、授業は午前・午後の2部制です。また夏休みのような長期休暇はありません。学校に行かない期間をつくると、子どもたちはその時間働き、稼ぐようになります。そして、休みの後に学校に通わなくなるからです。

学校は子どもたちが勉強する機会をつくと同時に、一日のうちの数時間を友達と遊んだりして過ごす場になっています。



アル・カイルアカデミーで勉強する子どもたち